

# LIFE IS GOOD

## *SAFFIER SE 33 LIFE*

クラシカルでありながらモダン。それが、初めて「SAFFIER Se 33 Life(サフィアSe 33ライフ)」を目にした印象。

深いディープブルーのハルカラー。ハルカラーと調和したライトグレーのデッキカラー。

削り出したばかりのチーク材のような明るい色合いのシンセティックチーク。

コンパクトなデイセラーでありながら、上質な存在感を主張している。

それはまるで本物のジュエリーだけが持つ輝きのように、人々を魅了する。

text: Yoshinari Furuya photo: Makoto Yamada

special thanks: OKAZAKI YACHTS <https://okazaki.yachts.co.jp>



## 2022年「European Yacht of the Year」部門賞受賞のパフォーマンスデイセーラー スタイリッシュなモダンデザイン、風を操る喜び、セカンドボートとしても最高の「SAFFIER」

オランダで建造される「SAFFIER YACHTS (サフィア)」。オランダの首都アムステルダムと、北海を結ぶノルトセー運河の河口にある港町エイマイデンにSAFFIER YACHTSは立つ。SAFFIERはオランダ語、英語ではSAPPHIRE、日本語ではサファイア、つまり宝石名が名前に使われている。SAFFIER YACHTSは、ダイヤモンドのように眩い白色ではなく、いろいろな色を持つサファイアのような。「SAFFIER Se 33 Life (サフィア Se 33 ライフ)」が個性的な色を放つ。

SAFFIER YACHTを運営するのは、Hennevangerファミリー。そのルーツは、現CEOのDennis Hennevangerの父親であるRichard Hennevangerが1961年オーストラリアに渡り、造船所を創業したことから始まる。そして、1972年には、その造船所とオーストラリアで所有していたものを全て売却し、故郷オランダでヨットを建造。当時7歳のデニスと4歳のディーンとともに家族で8年間、世界をクルージング。そして航海を終えた1980年、ヨットを売却し、オランダで造船所を再開する。ディーンは造船工学の道に進み、デニスはウィンドサーフィンで活躍した後、地中海で大型ヨットのキャプテンとして経験を積む。そしてオランダに戻り



1999年、SAFFIER 6.50を発表。2002年には、SAFFIER 8.00を建造。2004年、初めてEuropean Yacht of the Yearにノミネートされ、メディアの注目を集める存在となった。

歴史は浅いが、それ以前からの造船の技術が受け継がれ、クルージングやヨットキャプテンの経験とノウハウが活かされ建造されたSAFFIER。デイセーラーに特化したこだわりのデザインやセーリング性能、品質にこだわる建造技術により、デイセーラーの分野を牽引するトップビルダーとして認知されるのに時間はかからなかった。そして、セールボートのアワードの中で最も権威のあるEuropean Yacht of the Yearを受賞する。その回数は、デイセーラーがノミネートされるSpecial Yacht部門で4度のBest Special Yachtを受賞。まずは2009年にSAFFIER 26が受賞。SAFFIER YACHTの名を、世界に広めた名艇として歴史に残る一艇。続いて2011年にはSAFFIER Se 23、2021年にはSAFFIER Se 27が受賞。そして2022年、SAFFIER Se 33 LifeがBest Special Yachtに選ばれた。毎年何艇ものニューモデルを投入するラインナップが豊富なビッグビルダーとは異なる家族経営のビルダーでありながら、4度も部門賞を受賞した事実。これは、偶然でも奇跡でもない。SAFFIER YACHTの建造するセールボートが、経験豊富な専門誌の記者に認められた結果。奇をてらったデザインやギミックではなく、オリジナリティやクオリティ、シーワージネスやパフォーマンスなど、バランスの高い評価を獲得した証なのだ。

\*

SAFFIER Se 33のデッキに貼られたシンセティックチークに足をかける。トランサム付近のブルワークは水面からおよそ800mm。そこからバウに向かい徐々に高くなる。最も高いバウ先端でも海面から1,100mmほど。ロープロファイルなスタイリングからバウ前方に1,280mmも飛び出すバウスプリット。レースヨットのトレンドであるコードゼロを効果的に展開する装備。このバウスプリットは、スポーティーな走りを予感させ

ると同時に、ボブステイで支えられた姿が、モダンなデザインにクラシカルなエッセンスを加えてくれる。さらにデザインの中で最も個性的なキャラクターは、バルビットやライフラインのないところ。これも、見方によっては、クラシカルな帆船スタイル。デイクルーザーに許されたデザインコンシャスな選択。モダンとクラシカル融合が、唯一無二のデイセーラーを生み出したのだ。

デイセーラーの特徴でもあるショートデッキと、広々としたコックピットのバランス。トランサムから前方に1,480mmのアフトデッキは、水面まで580mmほどの高さとなるオーブントランサム。その前方は1段下がるコックピット。コンパニオンウェイまで2,400mm以上ある広々としたもの。その左右には、およそ1,800mmのベンチシート。座面を開けるとストレージが現れるスタンダードなエクステリア。その後方には、左右2カ所で操船できるツインラット。このモダンなツインラットは、デイセーラーでは珍しいもの。左右に移動して操船できることで、前方の視認性だけでなく、セーリング中のセールチェックが容易になり、セールトリムやヘルムがしやすくなる。また、アフトデッキからキャビンへの行き来がしやすいメリットもある。

ラフ海面でのクローズホールドだがマイルドで上質なフィーリング。バウスプリットにボブステイ。バルビットとスタンションのないブルワーク。磨き込まれたダークブルーの船体。この角度から見ると、往年の名艇と言われているレジェンドレースヨットのような雰囲気を感じさせている。





オープントランサムのスーパースポーツ的なデザイン。フラットで薄くワイドなトランサムスタイルがモダン。ミニマルなダブルラットスタイルもスーパースポーツのトレンド。モダンでありながらトラッドな美しさも併せ持つ唯一無二の存在。

コンパニオンウェイのスライドハッチを開け、キャビンに降りる。ロープロファイルなデザインから生まれる、落ち着けるサロン空間が広がる。天井高は1,230mmと低めだが、コンパニオンウェイのスライドハッチが大きく開くので、明るく、出入りもしやすい。ポートサイド後方には、シンクやKENYONの電気式シングルコンロが備わるミニギャレー。コンロは、アルコール式との2WAYタイプなので、電気を使うことなく安全に加熱・調理

をすることもできる。ギャレーの横には、1,980mmの長さがあるソファ。幅も広くベッドとして使うことができる。スターボードサイド後方には、個室のトイレ。1,200mmのヘッドコンパートメントは、座った状態ならば、頭も当たらず必要十分な高さで広さ。トイレの横には1,580mmのソファ。ベッドとしては短いですが、就寝時にはVパースのスターボード側の一部のクッションを外すことで、410mm延長することができ、合わせて1,990mmと



セルフタックシステム、ブームバンク、電動ウインチに手元のシートストッパー。コードゼロ用のバウスプリットやツイソラット、低ノイズのエンジンとセールドライブなど、シングルハンドでも安全で快速、そして快適にセーリングを楽しめるような儀装が細部にわたりデザインされている。



ラット(ステアリングホイール)の側面にはメーターパネルやスイッチ、エンジンコントロールレバー。すぐ前には電動ウインチとコントローラー。セーリング関係のシート類やストッパーも集約され、移動することなくシングルでもセーリングすることができる。ポップアップクリートもモダンで美しい。

なる。足を伸ばし快適に睡眠をとることができる。また、その分Vパースは短くなるが、Vパース自体の長さは2,460mmもあるので、2,050mmの奥行きが残り、2人が寝ることができる。4人家族でオーバーナイトのクルージングを楽しむことができる。

風速は5～8m/sのガスティな風。朝まで続いた強風の影響で風速以上に荒れた海面の東京湾。パワートレインはYANMAR 2YMにセールドライブ。他には電動モーターも選択することができる。機走では、1,000rpmで3.5ノット、1,500rpmは4.6ノット、2,000rpmで5.7ノット、MAXの2,300rpmでは、

\*

横浜ベイサイドマリーナから機走で出港する。撮影当日は、北東の風、



ダウンライトや間接照明がセンス良くデザインされたシンプルモダンなインテリア。ソファは、バースとしても使えるように、1,580mmから1,990mmのベッドサイズにアレンジできる。シングルコンロは、エレクトリックとアルコールの2WAYタイプ。エンジンを使わず、安全でクリーンにコンロを使うことができる。



朝まで続いた強風の影響で荒れた海面。風速5~8m/sのガスティな風の中、6~7ノットで快速セーリング。ブローが入るオーバーセール時でも、直進性は高く、ラットに負荷がかかることはない。ヒールを強めるが、腰が強くマイルドな挙動。ラダーが抜けることもなく、安定感と安心感のあるセーリングを楽しむことができる。

7.3ノットを記録。機走力も十分なレベルだ。

沖に出てすぐにセールアップに入る。メインセーラーはレイジージャックのシステムで簡単に展開。ハリヤードやシート類は全てデッキの下を通り、左右のウインチにリードされている。デッキ上はすっきりとし、シャープなスタイリングを際立たせている。ウインチは電動式。一人で楽にセールアップやセールトリムを行うことができる。ヘッドセーラーはファーリングのセルフタックシステム。タッキング時のジブシートの解除と引き込みは行わない。どちらのセールもシングルハンドで容易にセールアップやコントロールが可能だ。

舵を切りヘッドを落としセールに風を入れる。風が孕むとともに軽快に加速する。チョッピーな波を受けながらのセーリングだが、インフュージョンで建造された船体は、軽量でありながら高剛性。波の当たりもソフトで、デッキもドライ。低重心の船体をもたらす安定感はSAFFIER独特のフィー

リング。キールの長さや高いバラスト比により、緩やかな反応でヒールする。また、ある程度のヒール角からは復元力が大きく働き、腰が強い印象。突然の強いブローでもラダーが抜けることなくポートコントロールを続けることができる。これら基本性能の高さこそがSAFFIERが高く評価されている最大の特徴であり、安全性の高さや操作性にもつながっている。

\*

ゴージャスなキャビンを持つ大型モーターヨットとは対照的なSAFFIER Se 33 Life。このセールポートこそ、セカンドポートにお勧めしたい。マリナーステイや風がない日は、メインで所有するモーターヨットを楽しみ、いい風が吹いたらSAFFIER Se 33 Lifeでセーリング。それは、ファンライドを楽しむためだけにバイクを所有するようなもの。海や自然を全身で感じることができるSAFFIER Se 33 Lifeが、豊かなマリタイムをもたらしてくれる。*P.B.*

#### SAFFIER Se 33 Life

全長 11 m  
 全幅 2.85 m  
 喫水 1.70 m  
 重量 3.00 ton  
 メインセーラー 33 m<sup>2</sup>  
 ヘッドセーラー 22 m<sup>2</sup>  
 コードゼロ 62 m<sup>2</sup>  
 エンジン YANMAR 2YM / 14HP  
 燃料タンク 40 L  
 清水タンク 60 L  
 問い合わせ先 オカザキヨット  
 TEL: 西宮 0798-32-0202、横浜 045-770-0502  
<https://okazaki.yachts.co.jp>



YouTube



YouTube

